

学輪 IIDA スペシャルシンポジウム 第1回登壇者

■「議論にあたって」

○石神 隆 氏 (法政大学名誉教授)

関心領域は、サステイナブルな地域づくり、地域産業経済、都市と水の関係史など。飯田市においては、飯田市第4次基本構想基本計画(1996年度～)の策定や、この度の「いいだ未来デザイン2028」の策定で未来デザイン会議(飯田市基本構想審議会)専門委員を務められるなど、当地域のまちづくりに様々な角度から提言等いただいている。学輪 IIDA のメンバーであり、長年にわたり「南信州・飯田ワールドスタディ」へ学生達とともに参加されてきた。

■コーディネーター

○中嶋 間多 氏(信州大学特任教授)

信州大学特任教授/京都芸術大学客員教授。現在、地方創生領域ではわが国最大の学会である『地域活性学会』の第3代会長をつとめる。軽井沢町在住。専門は応用情報学。

■パネリスト

○唐木 重典 氏

(株式会社NTTデータ経営研究所 取締役 Chief Marketing Officer)

NTTデータで秘書室課長、神奈川支店長、グループ事業推進部長などを歴任した後、2011年から現職を務める。地域コミュニティの課題解決に長い間携わってきたほか、近年はグローバルビジネス推進の責任者として海外の企業、団体との事業連携にも取り組んでいる。

シンクタンク、コンサルティングの立場で社会への情報発信に注力し、本年は特に「ポストコロナ社会」への提言の取りまとめを進めている。

○フランツ・ヴァルデンベルガー 氏(ドイツ日本研究所 所長)

1990年にケルン大学で経済学博士を取得後、ドイツ独占委員会(ボン)とドイツ日本研究所(東京)に勤務。

1997年からミュンヘン大学の日本センターおよび経営学部にて在職し、その間、客員教授として東京大学、一橋大学、筑波大学など複数の日本の大学で研究活動を行う。さらに、日独フォーラムのメンバー(日独両政府の諮問委員会)や、日独産業協会(DJW)の役員としても日独関係に貢献している。2014年10月1日付けにてドイツ日本研究所の所長に就任し、この任期中、ミュンヘン大学は休職となっている。主な研究内容は主に日本経済、日本の財政金融政策、コーポレート・ガバナンス、国際国際人材マネジメント、およびスタートアップエコシステム。

○諸富 徹 氏(京都大学大学院経済学研究科／地球環境学堂教授)

1968年生まれ。1993年同志社大学経済学部卒業。1998年京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。1998年横浜国立大学経済学部助教授、2002年京都大学大学院経済学研究科助教授、2006年同公共政策大学院助教授、2008年同大学院経済学研究科准教授を経て、2010年3月から現職。この間に、内閣府経済社会総合研究所客員主任研究官、ミシガン大学客員研究員、放送大学客員教授(放送授業担当主任講師)を歴任。2015年4月より、ミシガン大学グロティウス客員研究員(Michigan Grotius Research Scholar)、および安倍フェロー(以上、2016年3月まで)を務めた。2017年4月より、京都大学大学院地球環境学堂教授を併任。

これまでに、経済産業省「総合資源エネルギー調査会」臨時委員、環境省「中央環境審議会合同部会地球温暖化対策税制専門委員会」委員、東京都「環境審議会」委員、環境省「国内排出量取引制度検討会」委員、飯田市「再生可能エネルギー導入支援審査会」会長、環境省「中央環境審議会」臨時委員、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部「地域魅力創造有識者会議」委員等の役職を歴任する。

○萩本 範文 氏(公益財団法人 南信州・飯田産業センター専務理事)

1968年3月名古屋工業大学卒、1968年4月多摩川精機株式会社 入社、1998年2月代表取締役社長 就任(16年間社長を務める)、2014年2月代表取締役副会長 就任、2017年11月 退任、2017年12月AMシステムズ株式会社 創立、代表取締役社長 就任、外部役職(2020年4月1日現在)として、信州大学経営協議会委員、長野県産業立地推進委員ほかを歴任される。